

長月、9月になりました。

8月末から新学期がはじまっている学校も多いことと思います。二期制の学校も多く、学校から季節感がなくなってきましたが、やはり新学期はフレッシュな気持ちで取り組めるいいチャンスです。そして秋は行事の季節。文化祭や体育祭などこの時期に実施する学校も多いと思います。

この夏休みに経済教室で学んだ内容や、研修などで得た新たな知見を活用する季節でもあります。そんな初秋、今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【 1 】最新活動報告

8月の活動を報告します。

【 2 】イベントカレンダー

夏の経済教室の状況、部会の案内などを紹介します。

【 3 】授業のヒント

【 1 】最新活動報告

最新のニュース、8月に行われた活動などを報告します。

■夏の経済教室が無事終了しました。

今年の各会場別の参加者数です。

名古屋中学	59名
名古屋高校	53名
大阪中学	124名
大阪高校	88名
東京高校①	170名
東京高校②	140名
東京中学①	129名
東京中学②	86名
合計	849名

今年は、名古屋会場は昨年並み、大阪会場は昨年より参加者は多かったのですが、東京会場は日程と天候の関係で、昨年より参加申込数と当日欠席者が多く、全体としては昨年よりやや減少しています。

しかし、内容では、大竹先生、鹿野先生の講演、篠原代表の歴史シリーズをはじめとして、各種の講義、教科書分析、高校や大学入試問題を通じた経済授業の提案、実践報告など質の高い講義や報告、会場でのアクティビティが全32コマ行われ、参加者から高い評価をうけています。

特に、高校入試問題や中学教科書の分析、実践報告など平常の部会活動を基盤とした報告が多く出

され、ネットワークの活動が実を結んできていることが特徴的でした。

来年は夏の教室を始めて 10 年目となります。これまでの成果を整理して、より質の高い教室を目指すことが課題となります。

各会場の講義の記録は、まとめ次第、以下の HP に掲載されますので、ご覧ください。

■東京部会 (No.85)を開催しました。

日時：2016 年 9 月 3 日(土) 14 時 00 分～16 時 30 分

場所：日本大学経済学部 本館 2 階中会議室

内容の詳細については以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo085report.pdf>

【 2 】 イベントカレンダー

* イベント予定です。

■冬の経済教室を開催します。(既報)

日時：2016 年 12 月 27 日 13 時 00 分～16 時 45 分

場所：慶應義塾大学 三田キャンパス 東館ホール

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/keizaikyousitu/2016%20keizaikyoushitsu/2016GeoFuyu/keizai.pdf>

* 定例部会のお知らせです。(開催順)

■札幌部会 (No.16) を開催します

日時：2016 年 9 月 17 日 (土) 14 時 30 分～17 時 00 分

場所：キャリアバンクセミナールーム

札幌市中央区北 5 条西 5 丁目 7 Sapporo55 ビル 5 階

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo016flyer.pdf>

■名古屋部会 (No.8) を開催します

日時：2016 年 9 月 17 日 (土) 15 時 00 分～17 時 00 分

場所：椋山女学園大学 現代マネジメント学部棟

名古屋駅より、地下鉄東山線「星ヶ丘」駅下車

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/nagoya/Nagoya008flyer.pdf>

■大阪部会 (No.50)を開催します

日時：2016年9月24日(土) 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト(予定)

大阪市北区梅田 1-12-17 梅田スクエアビルディング 17階

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka50flyer.pdf>

■東京部会 (No.86)を開催します

日時：2016年10月27日(木) 19時00分～21時00分

場所：日本大学経済学部 本館2階中会議室

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo086flyer.pdf>

* 関連団体のご案内です。

・野村総合研究所

第11回 NRI 学生小論文コンテスト

テーマ：Share the Next Values!

「世界を変える、新たな挑戦」

高校生の部：9月12日(月)締め切りです。

<https://www.nri.com/jp/event/contest/gaiyo/index.html>

・金融広報中央委員会

第13回 金融教育に関する小論文・実践報告コンクール(教員向け)

第14回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

第49回「おかねの作文」コンクール(中学生向け)

締め切りは、教員向けは9月30日、生徒向けは9月20日です。

<http://www.ron2016.jp/>

【 3 】 授業のヒント

■数学の教科書をのぞいてみよう

先生方は現在の数学の教科書を見たことはありますか。

数学と聞くと、それだけでアレルギーが出てしまう先生方も多いかもしれません。かくいう私もその一人です。でも、現在の数学の教科書は、そんな数学恐怖症の人間にもちょっと勉強してみようかと思わせる工夫がされています。

数学の教科書を見てみようと思ったのは、昨年、夏の経済教室で、大竹文雄先生が戦前の算術の

教科書の実物を持参されて、昔の小学生はこんなに難しい問題を解いていたのだと紹介したことがきっかけです。

確かに、実際に昔の教科書を手に取ってみると、こんな問題を解いていたんだというレベルの問題でした。だったら、今の小学生、中学生はどうなんだろう。また、経済学の学習には数学的知識がある程度は必要で、それが今の大学生にかけているという指摘もあり、算数（むかしは算術）・数学教育の歴史と経済学習の関係を調べてみようと思ったというわけです。

調査は江戸時代の『塵劫記』という本から現代までたどってみましたが、今回紹介するのは、その現代の部分です。

調べた教科書は、ちょうど学校に見本があって借りることができた東京書籍の中学数学の教科書です。

一読、カラーできれいで、いろいろ工夫をしていることが目につきました。驚いたのは、「社会とつながる」という見開きのページがあり、生活、文化、経済、科学の四分野で数学がどう使われているかという学習ができるようになっていることです。数学の学習指導要領の「数学的活動」という箇所に対応した部分だそうです。

例えば中学一年生では、「渋滞をなくすには？」や「グラフにひそむ情報を読みとこう」「データでスポーツを科学する」というテーマで、生活と経済、科学と数学の関連が説明されています。

中学二年生では、「点字を読んでみよう」です。ほかに「アクチュアリーを知ろう」というテーマもあります。アクチュアリーに関しては、保険と数学の関係が説明され人口ピラミッドまで登場しています。

中学三年生では、「どれくらい遠くからみえるかな？」や「紙の大きさとコピーの倍率」「割引クーポンで売り上げアップ」が登場。クーポンでは POS が解説されています。

もちろん、教科書にあるからそれがきちんと教えられているとは限りませんが、素材としてでも社会科や公民科の経済学習と接近した事例が扱われていることは驚きでした。

今年の夏の経済教室で、大阪狭山南中の奥田先生がおっしゃっていました。実践報告で紹介された、アクティビティを通して行わせる比較優位の発見の授業。同僚の数学の先生に話したら、この程度の計算なら中学生でも簡単にできますよと言われたそうです。

ことさら総合的な学習などといわずとも、教科同士のちょっとした交流や情報交換で勉強の風通しや視野がひろがるのがここからわかります。

先生方も一度、算数や数学の教科書をのぞいて、ご自身で確認されるとよいと思います。ここから、経済の授業のヒントが得られるかもしれません。

なお、大竹先生の昔の算数教育に関する指摘は、以下のページで読むことができます。

<https://www.jcer.or.jp/column/otake/index795.html>

(新井)

【 4 】編集後記（みみずのたはこと）

夏の経済教室、東京中学の初日は台風接近で、風雨とも強く荒れた一日でした。それでも定刻までには、会場に 100 名を超す先生方集まりました。篠原代表は「会場に数人しかいないのではと覚悟していた」と挨拶で述べられていましたが、そんな不安は吹き飛びました。

日本の先生はまじめなんだ、というのが編集者の感想です。でも、まじめだから、無理してやってしまうこともあります。そんな先生たちの努力がむくわれる処遇、特に研究時間の確保などの措置がほしいところです。(新井)

=====

登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

=====



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

————— (C) Network for Economic Education ◆◇